

ピアノ学習への意欲を低下させないアプローチとその方法

井上 克枝*

大阪信愛女学院短期大学

Approaches and Methods to Maintain Motivation for Learning to Play the Piano

Yoshie Inoue

Human and Environment Vol. 8 (2015)

幼児教育課程において、ピアノは必須項目のひとつであるが、入学者のうちの約半数がピアノ初学者であるということが少なくない。また、技術習得には授業だけでなく、独習も必要となるため、ピアノ学習への意欲が大きな課題となる。本稿では、従来の基本練習を改良し、筆者の経験で培った新しい基本練習メニューをもとに、より早く成果や達成感を得ることができる練習方法を取り入れること、復習中心型練習法を積極的に実践することで、独習が不可欠なピアノ学習への意欲を低下させないアプローチを実践検証した。その結果、今回の調査対象者全員が、学習意欲が持続した、もしくは学習意欲が上がったという成果が見られた。

キーワード：幼児教育・ピアノ学習・意欲・基本練習・バイエル

1. はじめに

幼児教育において、ピアノは必須技術の一つである。それゆえ、幼児教育課程を有する教育機関では、ピアノの単位取得が必修となっている。しかし、学内の授業だけでは、ピアノの技術向上は難しく、スポーツなどと同じように、日々の練習、すなわち独習が必要となる。幼児教育課程に入学する学生のなかには、ピアノ初学者という者も少なくない。しかも特殊な技術だけに、独習するにもやり方がわからなかったり、自信が持てなかったりして、どんどん独習意欲が低下する傾向にある。

そこで筆者は、独習が不可欠なピアノ学習への意欲を低下させない、適切なアプローチとその方法を

研究した。研究題材として、ピアノ学習の必須教材であるバイエル104番を使用し、意欲的にピアノ独習に取り組めるための、独自の練習メニューを研究し実践した。一般的な独習方法では、全体的な通し練習が主となり、できない部分そのまま放置され、上達を実感できないまま時間だけが過ぎていくといった状態に陥りやすい。その結果、練習してもなかなか上達しないという不服から意欲が低下し、独習時間が少なくなる傾向にある。そこで筆者が研究した独習メニューでは、フレーズ単位で区切り、上達を常に感じながら少しずつ確実に完成させていく、達成実感型独習を取り入れた。今回、練習メニュー実施後、アンケート調査を行い、その効果を検証したので報告する。

2. 研究方法

2.1. 調査題材と調査対象

調査の題材は、便宜上、バイエル104番（資料1）を使用した[1]。この曲は、本学をはじめ幼児教

*大阪信愛女学院短期大学 子ども教育学科
〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見 6-2-28
E-mail: yinoue@osaka-shinai.ac.jp

受付：2015年2月16日、受理：2015年2月28日
©2015 大阪信愛女学院短期大学

育課程でピアノを学習するものにおいて、必修教材であるバイエルの最終課題ともいべき楽曲だからである。

調査対象は平成 26 年度中に、筆者が担当した個人レッスン学生（大阪・京都の短期大学 1 年生）の内、バイエル 104 番を学習した学生 7 名である。

2.2. 調査方法

バイエル 104 番の練習メニューを行い、終了した学生に、設問と自由記述でアンケート調査の回答を求めた。

1) 練習メニュー

今回実施したバイエル 104 番の練習メニューを以下に示す。

第 1 ステップ

楽曲の情報収集：拍子（8 分の 6 拍子）、調性（長調）を理解する。dolce・legato・cresc.・dim などの、楽語や、表情記号もチェックする。

第 2 ステップ

全体を前半と後半に分けた後、フレーズ単位など、細かいグループに分けて、ナンバリングする。比較的難易度の高そうなグループから練習を始めるように、練習順序のメニューを考える。難しいと感じるところに個人差はあるが、目安として提示し、本研究では以下の通り決めた。

【前半】

⑥ → ⑦ → ① → ② → ③ → ④ → ⑤の順

【後半】

⑪ → ⑫ → ⑬ → ⑧ → ⑨ → ⑩の順

第 3 ステップ

「基本練習」（表 1）というマニュアルに沿って

練習を進める。練習順序通り、まず⑥から練習をはじめ。基本練習に準じて⑥が完成したら、⑦を行う。ポイントは必ず完成させてから次に進むこと。⑦ができたなら、⑥⑦をつなげて弾いてみる。

第 4 ステップ

同様に①②、③④⑤と練習を進める。これも必ず、一つずつのグループが完成してから次に進める。特に②は、①と類似度が高いため、①が完成していれば、②がとても弾きやすいからである。類似に気づくことができると、意欲も低下しにくい。二つ三つのグループができたならつなげて弾いてみる。その他の留意点としては、左手の分散和音を弾き分ける練習を取り入れることである。同じところと変わるところが意識できれば、飛躍的に完成スピードが上がる。③④⑤に関しては、パターン性が少ないため、指になじむまで時間がかかるが、その分短いフレーズで区切っているの、ほかと同様ぐらいのスピードで完成する。（結果、意欲を持続できる）

第 5 ステップ

ここまでできたら、前半部分を通して弾く練習をする。基本練習同様、止まったり間違えたりする場合は、テンポを落として弾くなどをして、一定のテンポを保って弾けるように工夫する。

第 6 ステップ

後半も、第 2 ステップで決めた難易度順に練習を始める。各グループの練習方法は、前半と同じ基本練習だが、ポイントは、1 つのグループの完成ごとに、前半の復習を一度入れることである。一度は完成した部分でも、時間が経過するとまた忘れてしまう。「忘れて思い出して繰り返す」という反復作業をしなければ、技術の定着は難しい。

グループ⑫⑬は、前半同様、類似している。前半

表 1 基本練習

-
- 【1】** 右手を練習。指番号と音の長さ(リズム)、強弱記号、表情記号など、楽譜に記載されている全ての情報に注意して、ワンフレーズワンアクションで弾けるように練習する。手首がバウンドしたり、音が切れたりしないようにする。右手のフレーズがスムーズに弾けるようになるまで何度もやる。途中でテンポを変えたり、弾き直したりしてはいけない。どうしても指がスムーズに動かない場合は、考えれば次の音がわかるスピードまでテンポを落とし、とまらずに弾くことを徹底する。初めて間違えずに弾けた瞬間を 0 回目とし、そこで終わらずに、「慣れてきた」と感じるまで繰り返す（約 3～5 回）ことで、技術が定着する。
- 【2】** 同様に、左手も練習する。こちらもスムーズに弾けるまで何度も弾く。1 つのグループ(ワンスレーズ)をひと息で弾く。
- 【3】** いよいよ両手だが、両手の練習に入る前に右手の復習を試みる。左手の練習の間に少し忘れていた可能性があるため、右手を再確認する。弾いたら両手にチャレンジする。
両手でワンフレーズ弾いてみて、スムーズに弾けたらそれを 0 回目として、さらに 3 回ほど繰り返す。
ところが両手はスムーズにワンフレーズ弾くのは困難である。難易度の高いグループならなおさらである。その場合の練習方法は以下のとおりである。片手の時と同様、次の音を考えて準備できる程度にテンポを落として弾いてみる。それでも弾けなかった場合、両手で弾くのは初めの 1 小節ぐらいで、そのあとは右手だけをつなげたり、左だけをつなげたりして弾いてみる。少しずつ両手の箇所を伸ばしながら、グループ全体のフレーズを完成させる。
-

の部分とも、調性の違いぐらいで、パターンが酷似しているのので、違いを考えて弾けば、容易に完成できる。グループ⑧⑨は、全く同じなので、⑧を完成させれば、すぐに続けて弾くことができる。さらに、グループ⑩は、前半のグループ①と全く同じなので、こちらもすぐに弾けるはずである。すべてできたら、後半をつなげて弾いてみる。(前半同様、一定のテンポで止まったり間違えたりしないことに注意して練習を工夫する)

第7ステップ

最初から最後まで通して弾く。曲が長くなる分、集中力の持続が難しくなる。それぞれの細かい技術練習はグループごとの練習で完成しているので、ここでは集中力を持続させて、最後まで弾ききる練習を行う。

2) アンケート調査

練習後に実施したアンケート調査の内容は表2に示す。設問1、設問2は今回の練習メニュー実施により、時間や意欲にどのような違いや変化があったかという調査、設問3は実施後、特に感じたことの自由記述とした。

尚、調査対象者には、事前に研究の趣旨を説明し、調査を受けることへの負担はないようにし、調査データは個人を特定できない形で扱うことの了解を得たうえで実施した。

3. 結果

バイエル104番を終了した学生7名に、設問と自由記述でアンケート回答を求めた結果は、表2の通りである。

表2 アンケート結果

設問1: この方法で練習する事で、完成までの時間に違いがあったと思いますか?

- あまり違いがなかった… 1名
- 自己のやり方より時間がかかった… 0名
- 自己のやり方より早かった… 6名

設問2: 練習開始から完成までの意欲の変化はどうでしたか?

- 意欲はなかったし、最後まで意欲がないままだった… 0名
- 意欲はなかったが、どんどん意欲が上がっていった… 4名
- 意欲はあったが、どんどん意欲が下がっていった… 0名
- 意欲はあったし、そのまま変わらず意欲が続いた… 2名
- 意欲はあったが、さらに意欲が上がっていった… 1名

設問3: この練習方法に関して、感じた点を自由に述べてください。(注: 類似する回答はまとめて記述する)

<基本練習についての回答>

- 初めの譜読みに間違いがないかどうかを確認できた… 2名
- 出来なくて悩んでも基本練習を思い出せばできた… 2名
- 練習の内容が充実しているので、出来上がりが早くなった… 3名
- とまらずに続けて弾けるようになった… 2名
- 出来上がりのスピードは変わらないが、出来上がった時の演奏の質が違う… 3名
- 弾くテンポがゆっくりでも、パターンがわかるのが早かった

<ナンバリングと難易度順練習メニューについての回答>

- 練習する順序がわかったので、やりやすかった… 3名
- 難しいところを先に練習することで、後が楽に感じた… 4名
- 難しいところを先に練習し、曲中のレベル差を解消できた
- 同じ部分を先に練習しておくことで、2回目に出て来た時に楽に感じた
- 区切りのつなぎ目に問題が出てきた
- 難しそうに見える曲も、やれそうだなと思えるようになった… 2名
- 効率が良いと思った

<意欲、その他についての回答>

- レベルの高い曲だと思っていたが、できてうれしかった… 2名
 - 他の曲でも役立つと思った… 2名
 - 雰囲気をつかむのが早かった
 - もっと弾きたいと思えた
 - ピアノに向かう時間が増えた… 2名
 - ゴールが近くに見えるのでやりたくなる
 - 自力でできる自信がついた、やる気も出た… 3名
- (以上、自由回答数 38 無回答 0)

設問4: ピアノが嫌だと感じる理由は何ですか? (自由回答)

- 指が思うように動かない… 4名
- 楽譜がスラスラ読めないの、面倒くさい
- まとまった時間がない
- 練習の仕方がわからない… 3名
- 自信がない(練習しても間違っているかもしれない)… 2名

(以上、自由回答数 11、無回答 1)

4. 考察

ハンガリーの作曲家で、ハンガリー国内外問わず音楽教育者としても多大な影響を与えたコダーイ・ゾルターンが「子どもが最初の6年間で聞いたものは、あとになって消すことができない」[2]と述べているように、幼少期、特に幼稚園、保育園などで耳にする音楽というのは大変重要である。したがって、幼児教育にかかわる教員のピアノ技術を含めた音楽的能力が、子供に与える影響力は多大であることを周知しなければならない。

しかし、幼児教育課程の学生の中には、大学生になってから初めてピアノに触れるという学生も少なくない。小さい時にやっていたが、辞めてからかなりのブランクがあるという学生も含めると、約半数にのぼる。表3は平成26年度本学入学生の入学時のピアノ習熟度を示したものである。

表3 平成26年度新入生ピアノ習熟度

A 全く経験なし	22% (20)
B バイエル90番未満	27% (25)
C バイエル90番 ～ブルクミュラー	23% (21)
D ソナチネ以上	14% (13)
E ソナタ以上	13% (12)

回答数 91名

この表が示すように、全体の49% (45人)、およそ半数近くの学生が、初心者またはバイエル初級レベルで入学してくる。それでも卒業までの二年間という短い間に、現場で通用するだけの実力を身につけさせなければならない。ピアノはスポーツなどと同じで日々の訓練や繰り返しの練習が必須な科目である。一週間に一度のピアノの授業だけで実力を上げることは到底困難なので、学生の自宅独習が必須となり、それに対する意欲の差が、顕著に習熟度の差として現れる。

ピアノに対する抵抗感は、独習意欲をますます低下させる要因となる。そもそも音楽というものは楽しむべきものであり、楽器を演奏することが、英語では play、ドイツ語では Spielen と表記するように、音楽と遊びは同じ本質を根ざした行為であるはずである。しかし、大学の授業で「学ぶ」となると、学生の意識が一変する。ピアノ学習について、荻田[3]は「幼児、児童への指導者を志す者は、ピアノ演奏の技能を習得するために十分な練習を積むことが要求される。しかしながら、幼児・初等教育の指導者養成校である短期大学や4年制大学の教職課程に在籍する学生が、卒業時までには教育現場のニー

ズに充分に応え得る技能を身につけることは、甚だ難しいように思われる。」と言及している。学ぶことへの義務的意識、練習を積むことの苦勞、アルバイトなどによる実質練習時間の無さなどが、独習意欲を低下させる要因でもありと考える。さらに、なぜ抵抗感を覚えるのかという詳しい理由については、およそ以下のような内容が考えられる。(一部、学生リサーチによる結果)

- ・楽譜を読むのに時間がかかり、弾く前に嫌になる。
- ・右手だけや、左手だけなら弾けるが、両手になると指が思い通りに動かなくなり、いつまでも弾けないので嫌になる。
- ・練習の仕方がわからない。
- ・自分の練習の成果が正しいのかわからず、不安になる。
- ・時間がかかりそうなので、初めからやる気が起きない。
- ・長い曲を見ると、うんざりする。

筆者の経験から、上記のような理由でピアノ独習意欲が低下すると、進度も遅くなるうえ、曲が弾ける喜びをなかなか感じる事ができず、さらに意欲が低下するという悪循環に陥る傾向にあると推測する。

そこで本稿では、初心者のみならず、ピアノ学習者が、意欲を低下させることなく独習できることを研究課題とし、従来の一般的な基本練習メニューを、細分化・改良した新しい基本練習メニューをもとに実践検証した。

今回用いた練習メニューは、ピアノ独習の意欲を低下させないためのプログラムであるが、以下のようなことが期待される。

楽曲分析

演奏前から意識しておく、練習をはじめた時点でその曲の感じ方を、より早く理解することができる。さらに、鍵盤上で弾く前に、楽譜から読み取れる情報をしっかりと読む訓練を付けることができる。「とりあえず指を動かしてみる」のではなく、まずは楽譜をよく見て、似ているパターンや陥りやすいようなミスなどをチェックしておく、全体が把握しやすく、見通しが立つことによって練習に入りやすい。よって、演奏前の楽曲分析がとても重要であり、実際の練習時も、考えながら演奏することで、より完成度が上がるものと推察する。

ナンバリングと難易度順練習メニュー

区切りを細かくして練習することで、弾き間違いを極力減らし、やる気を継続させながら練習に取り組むことができる。また一息で感じるパッセージを単位としてナンバリングすることで、初めの段階からフレーズを意識して練習することができ、同時に

似ている箇所や同じパターンの伴奏なども見つけることができる。そして、初めからではなく難易度の高いところから練習することで、意欲が低下する前に難しいところの練習を終えられること、「やればできた」と感じながら練習に取り組めることで、独習への自信がつく。上達実感型で、より意欲的に取り組むことができ、また、意欲を持続させることができた。しかし、細かいフレーズにすることにより、継ぎ目が多くなり、また、難易度順練習メニューに関しては、順序が演奏順ではないので、つながりにくいという結果があった。継ぎ目が多いと、どうしてもその部分で演奏が止まってしまったり、フレーズがつながりにくくなる可能性が高い。のちに演奏しやすいように、極端に難易度の差がない場合は、演奏順に練習メニューを決めるほうが良いと考える。

基本練習の効果

初めの練習段階からフレーズをしっかり感じることは、曲の仕上がりスピードにおいて、大変重要である。フレーズを無視して、ただ音を拾うように弾く練習をしていると、フレーズを音の点の集まりとしてしかとらえられず、その後、意識し直してフレーズを感じようとしても、一度練習した弾き方に慣れすぎて、治すのが困難になる。結果、そのフレーズが出来上がるまでに時間がかかってしまう。したがって、効率良く早く曲を仕上げるには、初めの段階で時間がかかろうと、確実に全ての情報を把握して演奏することが望ましい。

また、短いフレーズで練習していることで、難しいと感じる部分が少なく、短時間で正しい演奏をより多く弾くことができるため、定着も早い。「できる喜び」を早く味わうことができるので、意欲が低下しにくく、独習に自信がつく。一度弾けたところは繰り返し弾いてみたくなるので、自然と一番難しいところを弾く回数が増え、さらに意欲上昇が期待できる。

ピアノ独習に苦手意識を持つ初級レベルの学生は特に、どうすれば上達するのかが分かりにくいことが多く、上達していると実感するまでに、練習そのものが嫌になってしまうという傾向がある。そのまま1週間放置してしまうと、何も習得しないままレッスンを迎えるという結果になってしまう。まずは合理的で正しい練習方法を教えることを徹底し、独習方法が定着するまでの間、レッスンで新しいところと一緒に進め、それを家でおさらいするという、**復習中心型練習法**を推奨している。

今回、練習メニューを終え、アンケート調査を行った結果は以下のとおりである。設問1の結果から、およそ全員が、練習時間の短縮を感じている。

これにより、独習意欲維持の効果が認められる。設問2の結果から、ほぼ全員の学生に、独習意欲の維持、もしくは向上がみられた。これは、設問3の回答にあるように、練習メニューの改善により、学生が気づかなかった新しい練習方法を知り、細分化された練習メニューにより、早く達成感を味わう効果があった。上達が目に見える、早く達成感を味わえる、完成度が高いなど、意欲を維持、または増幅させる感情効果があったことが示唆される。設問4の結果については、それぞれ、解決方法として、以下の通り推奨する。

- ・指が思うように動かない → 基本練習の徹底
- ・楽譜がスラスラ読めないで面倒くさい → グループごとの練習を推奨
- ・まとまった時間がない → グループごとの練習を推奨し、短時間でも上達の実感をもたせる
- ・練習の仕方がわからない → 基本練習、難易度順練習メニューを推奨
- ・自信がない → グループごとの練習を推奨

実際に、設問3の結果として、すでに効果の出ている項目もあるが、自信がないという結果については、練習メニューの改善以外のアプローチも必要と考えるため、今後、引き続き研究を要するところである。しかし、その他の苦手意識のあったピアノの独習に対する抵抗感は、かなり和らいだと思われる。

さらに、なぜピアノが嫌いなのか、なぜ独習意欲がわからないのか、なぜ意欲を持続することができないのかという根本的な理由を、今回の練習メニューを遂行することによって、学生自身が解明することができたことで、今後の独習に、より改善的な効果があった。

ピアノが苦手だという意識は、大きく変わるものではないにしても、苦手でもこの練習メニューを遂行すれば技術向上が認められるというということを実感したことにより、今後の独習技術の向上も期待できる。

5. おわりに

幼児教育課程におけるピアノの授業において、ほかの講義形式の授業と大きく異なるところは、大多数が少人数レッスン、もしくは個人レッスンということである。集団での講義よりも、個人の性格や能力を把握しやすいということもあり、生徒個人に添った授業を展開することができると考えている。今回の検証は対象者が7名だったが、ほぼ全員に意欲持続、もしくは意欲向上の傾向が見られた。筆者はこの方法を6年前から実践し、ほぼ同様の効果を得

ている。初級レベルにとどまらず、すべてのピアノ学習者が意欲的に独習できるよう、さらに研究を進めていきたい。

文 献

- [1] 標準バイエルピアノ教則本. 全音楽譜出版社, 東京, p.71 (1983)
- [2] 中川弘一郎編・訳: コダーイ・ゾルターンンの教

育思想と実践～生きた音楽の共有をめざして～. 全音楽譜出版社, 東京, p.151 (1980)

- [3] 荻田泉: 幼児・初等教育の指導者養成におけるピアノ指導法の研究～初心者学習意欲を高める教授法について～. 四天王寺大学紀要 53, 215-232 (2012)

論文集「人と環境」Vol. 8 (2015)
大阪信愛生命環境総合研究所編

資料 1 譜例

71

前半 Allegretto.

104

後半